

2-18

生産・企業活動の統計

生産活動を表すという意味では、国内総生産が代表的なものです。すべての生産活動の合計を表しています。その意味では包括的な指標ですが、四半期に一度しか発表されません。このため、月次で発表される「鉱工業生産指数」が景気判断には重要となります。法人企業統計も企業動向をつかむために重要な統計です。

▶▶ 景気に敏感に反応する

経済産業省が発表する「**鉱工業生産指数**」は、製造業の活動状況を指数で表したものです。経済のサービス化が進んで製造業のウエートは2割程度と大きくないですが、景気を敏感に反映する指標として重要です。サービス業など非製造業は在庫が発生せず、消費の影響が大きいので緩やかに動きますが、製造業は景気に連動して大きく動きます。「**鉱工業生産指数**」の「山」や「谷」と景気の「山」や「谷」がほぼ一致するため、「**鉱工業生産指数**だけ見れば景気がわかる」と言う人もいます。

生産指数のほか、「**出荷指数**」や「**在庫指数**」なども発表されます。出荷指数は、生産されたもののうち、製品として出荷した部分を指数化したものです。出荷されなかった部分が在庫となり、在庫指数の計算に用いられます。在庫指数は、企業が持っている在庫の量を表しており、在庫残高を指数化したものといえます。

「**稼働率指数**」も景気状況を知るためには重要な指標です。これは、どの程度設備を稼働させて生産しているかを指数で表したもので、景気と連動することの多いデータです。

「**鉱工業生産指数**」の各指数は、価格を調整した後の数量ベースの指数です。GDPでいえば、実質GDPに近い概念の統計です。

経済産業省は、卸・小売業、サービス産業などの動向がわかる「**第三次産業活動指数**」も発表しています。

▶▶ 企業全体の収益を知るには

個別の企業の業績は、企業ごとの財務諸表を見ればわかります。しかし、企業の収益は各社の要因で大きく変わります。景気を見るために欲しいデータは、すべての企

業を合計した日本全体の企業活動の動きを示すものです。財務省の「法人企業統計」は、その役割を果たしています。

損益計算書に当たる統計では、売上高や営業利益、経常利益などが産業別に分かります。貸借対照表に当たる部分では、資産、負債などの状況がわかります。民間企業設備投資の速報値を作る際は、「法人企業統計」の新設固定資産を使うので重要です。

生産・企業活動に関する統計

統計名	発表者	期種	解説
国民所得統計	内閣府	四半期	実質GDPは、国内の生産活動を総合的に表す。
鉱工業生産指数	経済産業省	月次	鉱業と工業の生産活動を表すが、ほとんどが工業。基準年を100とした指数で表される。 (生産)企業が生産した製品を数量ベースで示す。 (出荷)生産されて、実際に出荷されたもの。 (在庫)生産されたが、出荷されていないもの。 在庫循環を調べるのに重要。 (生産能力指数)工場の生産力を表す。ただし、その調査対象は限定的。 (稼働率指数)企業設備のうち、どの程度使っているかを示す。景気循環に連動するため重要な指標。
第三次産業活動指数	経済産業省	月次	サービス業などの第三次産業の活動状況を示す。
法人企業統計	財務省	四半期	日本全体の財務諸表を表す。経常利益や売上高が重要。



景気ウォッチャー調査

内閣府は、景気を肌で感じる人に景況感を聞いた景気ウォッチャー調査を毎月発表しています。このアンケートに答えるのは、タクシードライバー、スーパーの店長、衣料品店の店員、スナック経営者、ホテルの経営者・スタッフ、パチンコ店従業員など、約2,000人です。現況判断DIは、「良い」「やや良い」「どちらとも言えない」「やや悪い」「悪い」の5段階で回答したものを集計したもので、「街角景気」を測る指標として知られています。